

第3回多摩川流域歴史セミナー

平成27年6月21日（日）14時～

国営昭和記念公園

主催 多摩川流域懇談会

講演

『多摩川上中流域の先史・古代』

和田 哲 氏



『多摩川50景』 日野橋と立川公園
(昭和59年撮影)

【プログラム】 ※時間は予定です

1 事務連絡 14:00～
[多摩川流域懇談会運営副委員長 石坂 真悟 氏]

2 開会挨拶 14:05～
[多摩川流域懇談会運営委員長 神谷 博 氏]

3 講 演 14:15～
『多摩川上中流域の先史・古代』
[和田 哲 氏]

(休憩) 15:45～16:00
※ご意見ご質問カードのご記入をお願いします

4 質疑応答・意見交換 16:00～

5 閉会挨拶 16:40～
[京浜河川事務所長 船橋 昇治 氏]

【和田哲氏プロフィール】

早稲田大学卒業、立川女子高に勤務
昭島市文化財保護審議会会長、立川市・国立市・羽村市・日の出町文化財審議委員
多摩考古学研究会事務局など、多くの埋蔵文化財の役職を兼務
縄文時代の遺跡を中心に業績がある

第3回 多摩川流域歴史セミナー

多摩川上中流域の先史・古代

和田 哲

I、太古の多摩川、なぜ多摩川上中流域から化石が発見されるのか？

1、多摩川上中流域の化石

アキシマクジラ・・昭和 36 年多摩川の八高線鉄橋下から発見、全長 16mの全身骨格

アケボノゾウ足跡・同幼体頭骨・イヌ属頭骨・カズサジカ（平成 12～14 年、多摩川の昭島市拝島町水道橋下から発見）

その他・・多摩川の中央線日野鉄橋付近でアケボノゾウ切歯発見、八王子の浅川河床でハチオウジゾウ発見、これらの地域では植物化石のメタセコイアも多く発見されている

2、関東山地と関東平野の成り立ち

400 万年前頃から関東山地が隆起、関東平野は盆地として沈んで行く

350 万年前頃、関東山地と関東平野（盆地）の地形がはっきりする

280～250 万年前、山地がさらに隆起、山地の礫が河川で流され盆地に堆積（加住礫層）

180～170 万年前、盆地がさらに沈降（小宮層、平山層の堆積）

3、多摩川上中流域の地形・地質

源流域・・関東山地、秩父古生層（古生代末期の海底堆積物）

中下流域・・**上総層群**、第三紀鮮新世～第四紀更新世古期（約 250 万年前～50 万年前）の海成層、砂岩・泥岩・凝灰質砂礫からなり、東京の基盤層で多摩地域では厚さ 1000 m以上の堆積

多摩地域の上総層群の層序区分（菊地隆男ほかによる）

（多摩川河床）・・基盤岩類→ 加住礫層→ 小宮層→ 小山田層

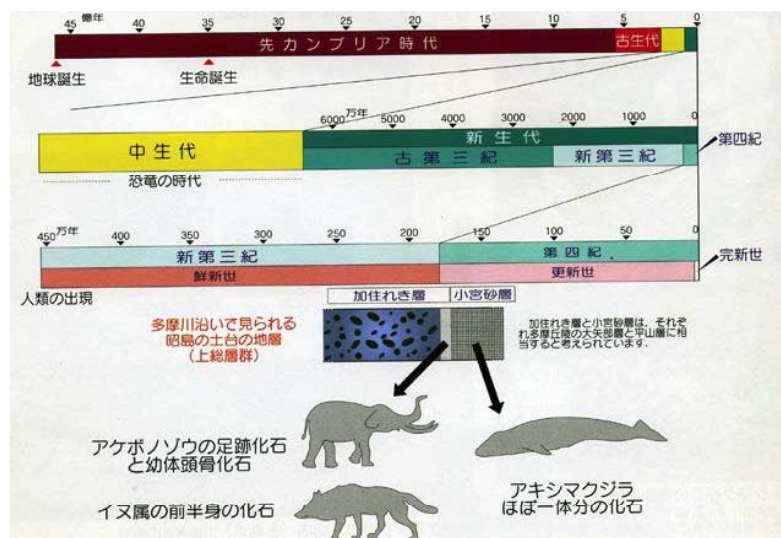
（多摩丘陵）・・・・基盤岩類→ 寺田層→大矢部層→平山層→ 小山田層

4、化石の年代

アキシマクジラ・・上総層群の小宮層中（約 160～170 万年前）で発見

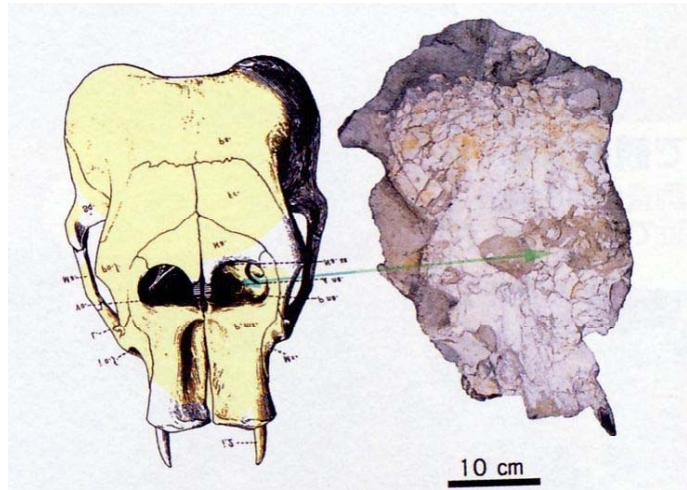
アケボノゾウ足跡など・・加住礫層と小宮層の間（約 170～180 万年前）で発見

ハチオウジゾウ・・上総層群中の寺田層（約 230 万年前？）





アキシマクジラの発掘（八高線鉄橋下）



アケボノゾウの幼体化石（拝島水道橋下）



イヌ属の頭骨化石（拝島水道橋下）



アケボノゾウ足跡化石（拝島水道橋下）

Ⅱ、旧石器時代（約 3.5 万年～1.5 万年前）

氷河時代の寒冷な気候 動物相（大型動物・・・ナウマンゾウ、オオツノシカなど）

植物相（カラマツ、チョウセンゴヨウ、ブナ、ミズナラ、カバなど）

ローム層中に残された最古の文化、小集団での**遊動生活**

石器の変遷・・・礫器、磨製石斧→ナイフ形石器→細石器・尖頭器

遺跡・・・野川流域や多摩丘陵と比べ、遺跡が少なく、大規模な調査も行われていない

Ⅲ、縄文時代（約 1.5 万年～2.8 千年前）**縄文土器は世界最古、木の文化？**

1、縄文時代の生活

縄文イメージの変化・・・野蛮、未開、飢餓→自然と共生した豊かな生活

定住生活、土器の使用（煮炊きによる食生活の多様化、地域性や土器文様の変化）

狩猟、漁撈、採集（堅果類）、クリなどの管理栽培

2、縄文時代の 6 期区分（草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）

各期の長さは同じではない草創期・早期は各 4000 年、その他は 1000 年前後

草創期（15000～11000 年前）温暖化、寒暖の激しい繰り返し、堅穴の出現

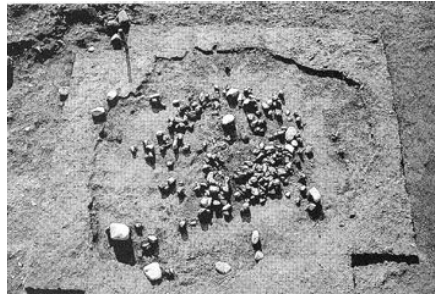
土器の登場（無文→隆起線文→爪形文→多縄文に変化、数量は非常に少ない）

狩猟用の石槍が多い

あきる野市前田耕地遺跡、日野市七つ塚遺跡



前田耕地遺跡 16号住居跡



同 17号住居跡



同石槍



七つ塚遺跡 161号住居跡



同住居跡の土器・石器

早期（11000～7000年前）集落の展開 土器は撚糸文→条痕文へ

昭島市拝島林ノ上遺跡、同市上川原遺跡、武蔵台遺跡、立川市大和田遺跡（撚糸文系）

恋ヶ窪南遺跡、日野市神明上遺跡、他に、**炉穴や落とし穴**が丘陵地に多数（条痕文系）



撚糸文期の竪穴住居跡（立川市大和田遺跡）



昭島市上川原遺跡の土器



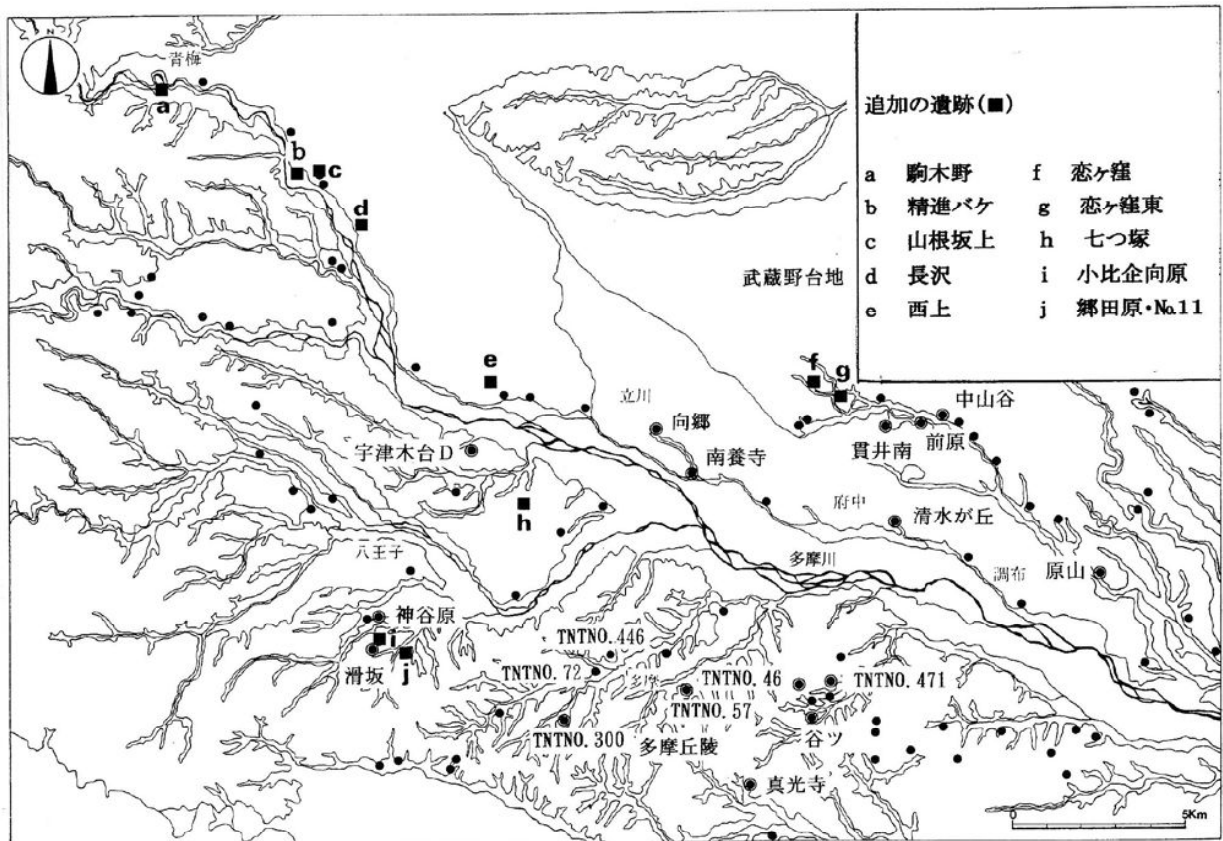
炉穴（八王子市郷田原遺跡）



陥し穴（郷田原遺跡）

前期（7000～5500 年前）**高温期、海進現象**、土器文様は縄文→竹管文へ
前期前半の遺跡は少ない、後半の（諸磯式期）の遺跡は多い
丘陵上に小規模集落、八王子市宇津木台遺跡、みなみ野No.25 遺跡

中期（5500～4500 年前）**環状集落などの大規模集落遺跡**、立体的装飾の土器
奥多摩町下野原遺跡、青梅市駒木野遺跡、羽村市山根坂上遺跡、福生市長沢遺跡、昭島市西上遺跡、**立川市向郷遺跡**、国立市南養寺遺跡、八王子市宇津木台遺跡、日野市七つ塚遺跡、八王子市滑坂遺跡、同市小比企向原遺跡、梶田遺跡群など
中期末に気候寒冷化→集落急激に縮小と同時に敷石住居が発展



多摩川上中流域の縄文中期主要遺跡の分布



大形住居跡（八王子市みなみ野郷田原遺跡）

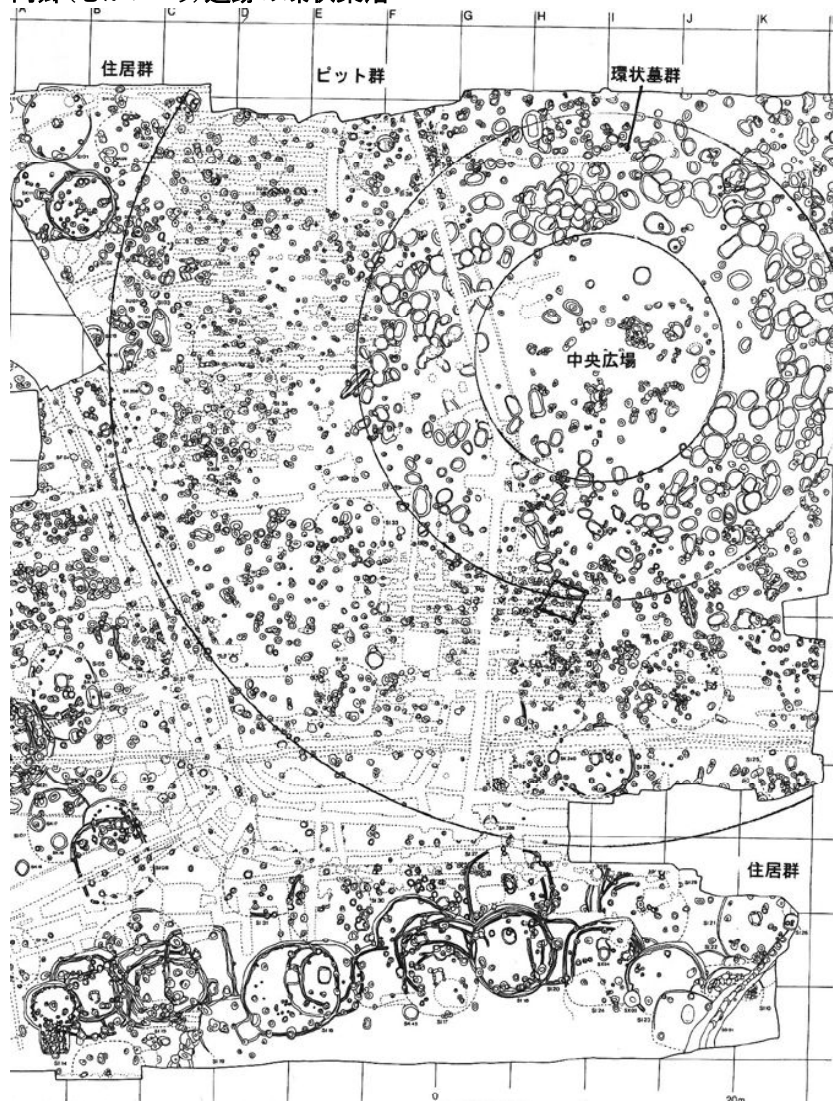


土偶（八王子宫田）



顔面装飾（国立南養寺）

向郷(むかいごう)遺跡の環状集落



立川市向郷(むかいごう)遺跡の典型的環状集落



岩手県西田遺跡の環状集落

大集落か小集落か？

大集落と呼ばれるものは、小集落が長期にわたって累積した結果であり、一時期に限ってみれば小集落であるという見方をするものもある

石器に見る多摩川流域の特徴 (多摩と千葉の違い、多摩 NT441 遺跡と千葉県松戸市紙敷遺跡の対比)

遺跡名	住居数	石鏃	打製石斧	磨製石斧	磨石	石皿	石匙	合計
多摩 NT441	18軒	13	175	2	18	6	9	223
松戸紙敷	17軒	12	13	2	10	1	0	38

鳥浜貝塚の木製品、植物製品と素材

種類	石斧柄	弓・尖り棒	丸木舟	櫓	容器	杭・柱	漆製品	編み物	縄・紐
数量	121	127	1	47	39	170	42	6	70
樹種	ユズリハ サカキ ヤブツバキ	カシ類 マツ ユズリハ	スギ	ケヤキ ヤマグワ カシ類	トチノキ タブノキ ケヤキ	ヒノキ スギ ヤマグワ			

縄文時代の植物質食料及び編組製品の素材

木の実・・・ドングリ類、クリ、クルミ、トチ

豆類・・・アズキ、ダイズ、リョクトウ

球根類・・・ユリ根、ノビル、ムカゴ（ヤマノイモ）

編組製品・・・織布、籠、敷物、紐、縄（素材タケ亜科のササ類、ツル植物のフジ、他にアサ、カラムシ）

敷石住居の登場

敷石住居は大正末期から昭和初期に現町田市や八王子市、あきる野市から相次いで発見され、いずれも国指定史蹟となり、多摩地域が研究の原点である。当初は、床面に敷石するという特殊な構造から通常の竪穴住居と異なる階層の住居とされ、社会構造の違いや呪術者などの特別な住居と考えられた。しかし、現在は一般的住居とする説が強く、かつ屋内祭祀の盛んな時期であったとされている。



国立市南養寺遺跡の敷石住居跡



国立市谷保東方遺跡の敷石住居跡



国立市緑川東遺跡の敷石遺構



八王子市小田野遺跡の敷石住居跡（後期）



あきる野市前田耕地敷石住居跡（後期）

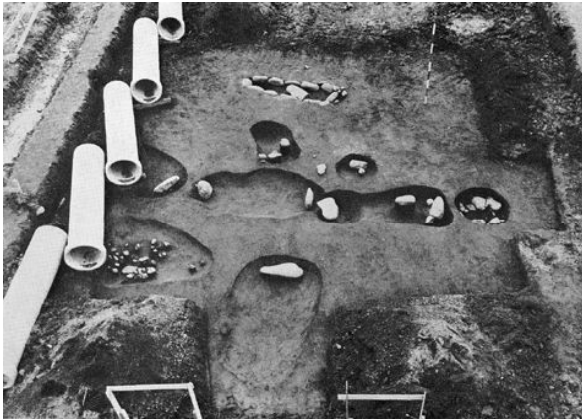


あきる野市中高瀬遺跡敷石住居跡（後期）

縄文後・晩期・・・気候寒冷化、居住地は低地に移動

後 期（4500～3200 年前）集落減少、土器は洗練された精製と装飾の少ない粗製
遺跡数が激減、敷石住居が後期初頭まで継続、**祭祀的遺物**（土偶など）
日野市南広間地遺跡、あきる野市中高瀬遺跡、青梅市寺改戸遺跡

晩 期（3200～2700 年前）祭祀儀礼（小型石棒・石剣、土偶）、東北の土器（亀ヶ
岡式）の浸透、亀形土製品、透かし彫りの耳飾、遺跡数はさらに減少、日
野市南広間地遺跡、落川・一宮遺跡、あきる野市中高瀬遺跡



青梅市寺改戸遺跡の後期墓坑群



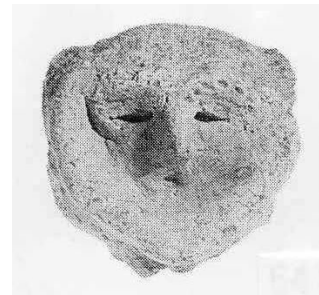
日野市南広間地遺跡の晩期住居跡



寺改戸の注口土器（副葬品）



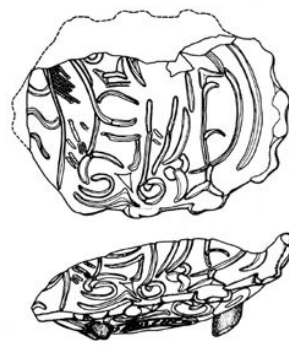
南広間地の土偶頭部



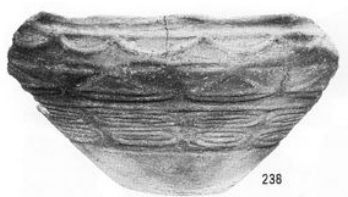
南広間地の顔面付土器



中高瀬遺跡の土偶



南広間地遺跡の亀形土製品



南広間地遺跡の晩期土器



南広間地の晩期土器

IV、弥生時代（紀元前8・7世紀～紀元後3世紀中頃）戦争がはじまった？

特色・・・**水田稲作、金属器（青銅器・鉄器）**に象徴される**新文化の流入**（中国や朝鮮半島より）
紀元前1世紀、倭国百余国に分立→紀元57年、奴国王が後漢に朝貢、光武帝から印綬を受ける（「**漢委奴国王**」の金印）→239年、邪馬台国女王卑弥呼が魏に遣使（239年「魏志倭人伝」）

環濠集落（吉野ヶ里遺跡など）・・・争いや戦争の始まり

時期区分・・・早期・前期・中期（紀元前後）・後期

分布・・・北九州～伊勢湾付近まで急速に波及、東日本には中期以降

多摩川流域・・・下流域に中期後半以降の集落、**上中流域は後期の集落発展**、水田跡は未発見
遺跡は多摩川本流ではなく、支流の小河川（川口川、谷地川、湯殿川）流域

南関東の弥生時代・・・中期後半頃から環濠集落や方形周溝墓が発展

弥生時代中・後期の南関東の土器・・・須和田式→宮ノ台式→久ヶ原式→弥生町式→前野町式

多摩川上・中流域・・・再葬墓、**方形周溝墓**（八王子市宇津木向原遺跡は命名の遺跡）

集落遺跡・・・日野市神明上遺跡、八王子市宇津木向原遺跡、鞍骨山遺跡、中野甲の原遺跡、神谷原遺跡、あきる野市前田耕地遺跡、青梅市馬場遺跡（入間川水系）



銅鐸（兵庫県）



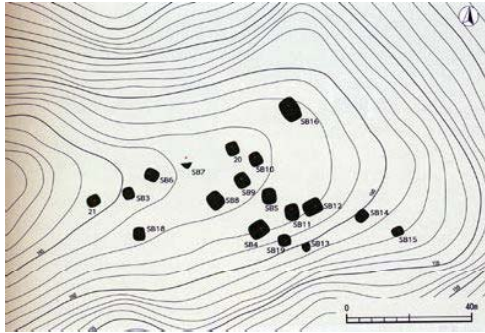
銅鏡、景初3年（島根県）



小銅鐸（八王子）



銅鏡（八王子）



八王子市鞍骨山遺跡の弥生時代末期の集落



鞍骨山遺跡の土器



八王子市宇津木向原遺跡の方形周溝墓



同方形周溝墓出土のガラス小玉

V、古墳時代（3世紀中頃～7世紀）**箸墓古墳は卑弥呼の墓？**

特色・・**大和政権の成立**と巨大墳墓の築造された時代→大和政権の発展→前方後円墳の各地への浸透

古墳・・墳丘は円墳、方墳、八角形墳、**前方後円墳**など、主体部は竪穴式石室→横穴式石室へ
副葬品（鏡、玉、刀剣、武器・武具、馬具、土器類など）と墳丘の埴輪

時期区分・・前期・中期（5世紀）・後期（終末期）

多摩川流域・・下流域に前期の大古墳、**上中流域は後期の小円墳主体**（地域の有力者も古墳に埋葬される）、中流域まで墳丘を持たない横穴墓も構築される**（古墳の3類型）**

上・中流域の主要古墳・・八王子市北大谷古墳（切り石積み）、国立市下谷保古墳群、同四軒在家（青柳）古墳群、昭島市浄土・大神古墳群、あきる野市瀬戸岡古墳群、後期には**群集墳が発展**、多摩川本流左岸では昭島市より上流に古墳は未発見

横穴墓・・日野市坂西横穴墓群、同梵天山横穴墓群、谷ノ上横穴墓群、八王子市大和田横穴墓群

古墳時代の集落・・国立市下谷保遺跡、日の出町三吉野遺跡、あきる野市世継・富士見台遺跡、八王子市石川天野遺跡、同中野甲の原遺跡、同中田遺跡、同船田遺跡



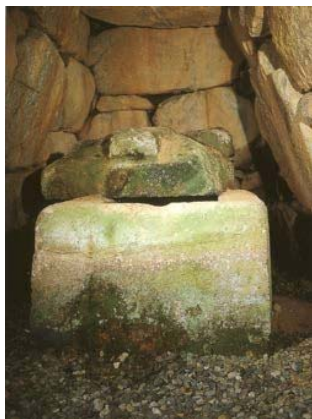
最古の前方後円墳と三輪山



奈良県下池山古墳の竪穴式石室



同古墳の石室内積み石と木棺



都塚古墳の横穴式石室
（蘇我稲目の墓？）

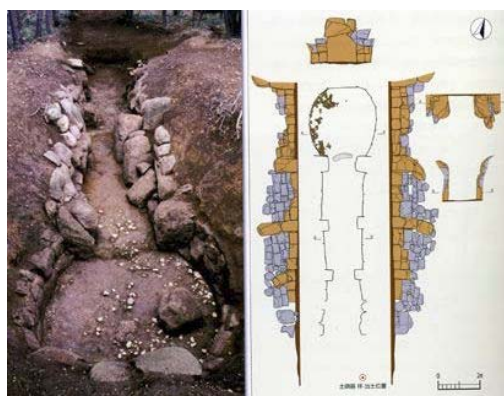


ナガレ山古墳の墳丘復元



同古墳の葺石と埴輪配置の復元

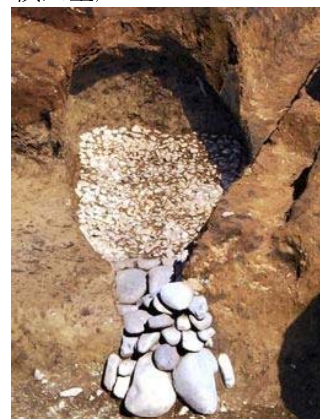
多摩川上流域古墳石室の三類型（1、切り石積み 2、河原石積み 3、横穴墓）



切り石積み（八王子北大谷古墳）



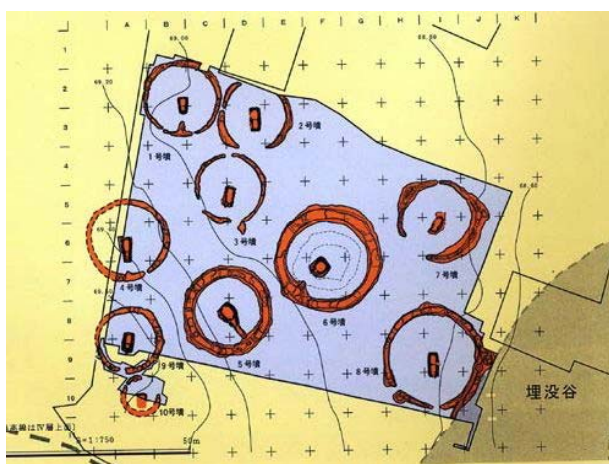
河原石積み（昭島浄土古墳）



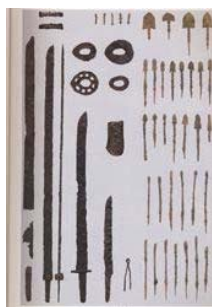
横穴墓（国立梅林）



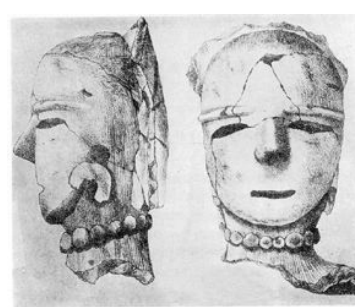
国立市四軒在家古墳群



四軒在家古墳群の分布



四軒在家古墳の副葬品



日野市七つ塚遺跡の埴輪



日の出町三吉野遺跡の古墳時代住居



同住居跡



同出土土師器

奈良・平安時代（710年～1185年）戸籍（堅穴住居の住人にも戸籍？）と牧と武士団と

特色・・律令体制の整備、中央集権的政治体制の確立（中央と地方の政治体制が整う）

中央官制・・二官八省 地方組織・・畿内と七道、国・郡・郷（里）

戸籍の編成（50戸で1里）

武蔵国・・21郡からなる大国、武蔵国府（国庁）は府中市大国魂神社付近、紡錘車と文字

古くは「无耶志」「無邪志」「無射志」、大宝4年（704）に全国的に二字表記に多磨郡の郷名（「和名類聚抄」の10郷）

小川・川口・小楊・小野・新田・小嶋・海田・石津・狛江・勢多

古墳から墓へ・・火葬墓の出現（昭島市玉川町火葬墓）

時代の趨勢・・奈良時代（聖武天皇と仏教）→平安前期（律令制再興に努力）→平安中期（藤原氏の摂関政治）→平安後期（武士の台頭）

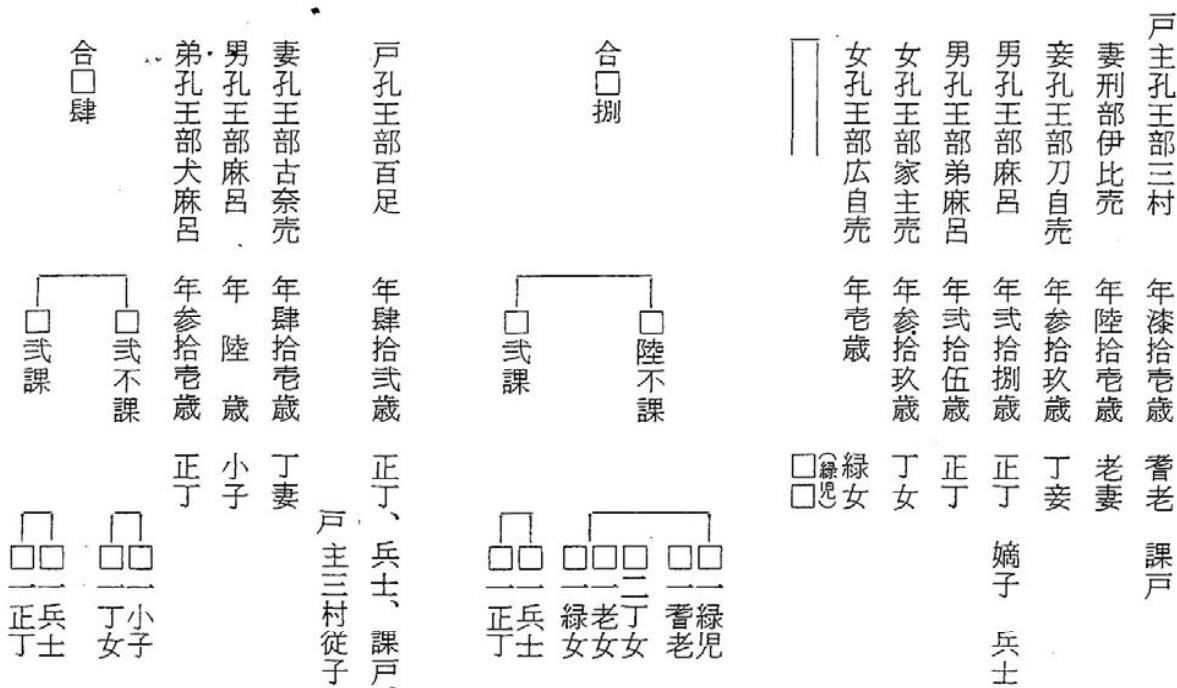
貢馬と武蔵七党をめぐって

奈良・平安時代の集落・・八王子市船田遺跡、同中田遺跡、同打越火畑遺跡、日野市南広間地遺跡、同神明上遺跡、国立市南養寺遺跡、昭島市経塚下遺跡、あきる野市前田耕地遺跡、八王子市御殿山窯跡群遺跡

養老五年下総国葛飾郡大嶋郷戸籍（715年）

郷里制・・715年～740年（天平12年）までの制度、郷を2～3里に分割

大嶋郷（50戸）・・甲和里（17戸）、嶋俣里（17戸）、仲村里（16戸）の三つからなる



構成・・戸主をはじめ家族の氏名、年齢、年齢区分、負担などを列記、終わりに合計を記す
年齢区分（大宝令制）

男	女	年齢
耆老（きろう）	耆女（きじょ）	66歳以上
老丁（ろうてい）	老女（ろうじょ）	61～65歳
正丁（せいてい）	丁女（ていじょ）	21～60歳
少丁（しょうてい）	次女（じじょ）	17～20歳
小子（しょうし）	小女（しょうじょ）	4～16歳
緑児（りょくじ）	緑女（りょくじょ）	1～3歳

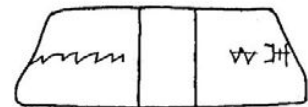
その他、丁妻（ていさい）・・正妻 丁妾（ていしょう）・・妾
 課口（かこ）・・課役の対象となるもの 不課口・・課役の対象とならないもの
 兵士・・正丁に課せられた兵役



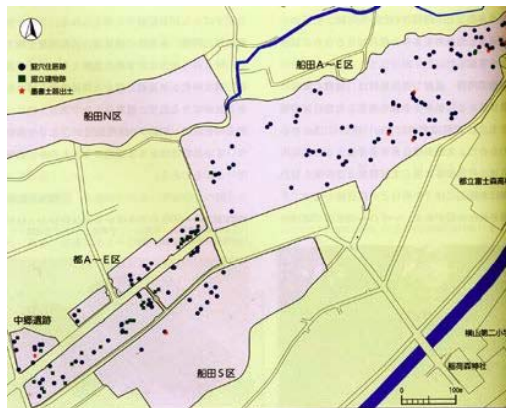
刻字紡錘車（国立市仮屋上遺跡）



紡錘車実測図



5cm



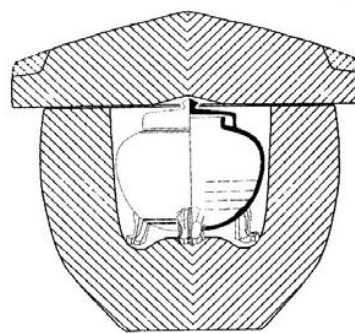
八王子市船田遺跡の古代住居分布



船田遺跡の平安時代住居跡



昭島市玉川町の奈良時代火葬墓



火葬墓の埋納状態



骨壺内の歯

論点

幽(きよし)文と「羊」の字「武蔵国多磨」は国郡名で、
が、また底面には複雑な鋸歯
文が刻まれている。
紡錘車は元来糸に擦(よ)
りをつける用具で、わが国
では弥生時代以降の遺跡から
しばしば発見される。土製や
土器片利用のものが多いが、
鉄製や石製などもあり、それ
自体格別に珍しいものでは
ない。しかし、これまで数多
連記した表記方法に律令体制

「武蔵国多磨」は国郡名で、
考古資料としては武蔵国分寺
跡から出土した瓦(かわら)
の中に「武蔵国」とヘラ書き
したものも存在するし、多磨
郡についても「多」・「多
麻」・「玉」などの郡名瓦が
多数発見されている。しか
し、「和名抄」の正字とする
を人名と考える解釈をとっ
た。
すなわち、羊をヒツジと読
野の羊集団が武蔵に進出した

しかし、ヒツジと読むこと
が正當かどうか、ヒツジの語
源的研究などを含め、果たさ
ねばならないいくつかの課題
がある。
また多胡碑の羊は新羅系の
渡来集団と考えられるところ
から、本堅穴の羊との関連に
も注目しなければならない。
この資料を公表して以来、上

従来、官人以外の庶民が漢
字で表記できるようになった
のは十世紀以降とされていた
ので、八世紀後半というこの
紡錘車の年代は、その認識を
大幅に引き上げたといえる。
私は、最近東國の奈良・平
安朝集落から、硯(すずり)
の発見が増加しつつある点に
注目している。硯の存在は文
字と直接結びつくものであ
る。八世紀代、律令体制の整備
とともに、必要に迫られ、集
落の有力者の中には漢字を書
き写したり、読みこなすこと
のできる人物が存在した可能
性を指摘しておきたい。その
意味で、漢字の普及は従来考
えられていた以上に早かった
ものと推測される。

石製紡錘車の意義探る

「羊」の読み、解釈が課題

和田 哲
わだ さとし



立川女子高教諭

問題の紡錘車は第四次調査
の堅穴から昨年四月に発見さ
れ、今年報告書を刊行して公
表したものである。紡錘車は
笠(かさ)形、上面の直径三
・三寸、底面径四・三寸の円
形で、高さは一・三寸。中央
に糸巻き棒を通す径九ミリの
孔(あな)が貫通し、重さ
は四十三グラムだった。上面
には「武蔵国多磨」、側面には鋸

の整備に基づく国郡名の浸透
を具体的に読み取ることがで
きる。
側面の「羊」は多くの問題
を含んでいる。羊で想起され
るのは和銅四年(七一)の
多胡建部記念碑である。いわ
ゆる「多胡碑」は文中に「給
羊成多胡郡」の文字がみえ、
羊の解釈をめぐって江戸時代
以来論議されてきた。主要な

み、正倉院文書の戸籍中に
「羊」・「比部自」・「比津
自」など計三十数人のヒツジ
を名乗る人物がいること、主
場からすれば、他の遺物等を
含めたより精緻(せいせい)な
論証が必要である。

奈良時代の考古学的文字資
料には、平城京などから多く
発見されている木簡、各地で
見つかった墨書土器などがあ
る。木簡は調・庸貢納にかか

る。木簡は調・庸貢納にかか

る。木簡は調・庸貢納にかか

る。木簡は調・庸貢納にかか

(考古学)

古代の牧について—多磨の牧はどこにあったか？

1、馬牧の制度について

「延喜式」の規定

諸国牧、勅旨牧（御牧）、近都牧

諸国牧・・・官制の改変で兵馬司から左右馬寮（めりょう）に移管

勅旨牧・・・朝廷直轄の牧場

信濃（16牧—80疋）、上野（9牧—50疋）、甲斐（3牧—60疋）

武蔵（4牧—50疋） 合計32牧—240疋

武蔵国の内訳・・・当初、**石川牧・小川牧・由比牧**（3牧—30疋→60疋）、立野牧（15疋→20疋）

承平元年（931）**小野牧**（40疋）、承平3年（933）秩父牧（20疋）が加わる

武蔵国の合計・・・6牧140疋と最大の貢馬数となる

近都牧・・・摂津、近江、丹波、播磨に設置、遠国から貢上された馬の飼養なども行う

2、勅旨牧の規定

①馬帳の作成、②調教、③貢上洩れの馬、④通送、⑤牧監・別当の任務、⑥近都牧に放牧
貢上と駒牽

武蔵国の貢上日

石川牧・小川牧・由比牧・・・8月25日

立野牧・・・8月25日

小野牧・・・8月20日—天慶元年（938）の駒牽の詳細な記録存在『本朝世紀』

秩父牧・・・8月13日

通送（宿継ぎで送る）宿駅・・・16km間隔

「延喜式」の規定・・・牽夫（1疋1人）、牧監・別当（夫馬3人3疋）、馬医、書生（2人ごとに夫馬1人1疋）

武蔵4牧（石川・小川・由比・立野で50疋、延喜式による）駅ごとに利用できる人馬数

牽夫・・・50人、別当・・・3人3疋、馬医、書生・・・1人1疋 合計54人4疋

貢上時期が秋の収穫期と重なり、沿道の人々に大きな負担

貢上の遅れと馬の員数不足

10世紀前半・・・規定通り 10世紀後半・・・極端な遅れはない 10世紀末以降・・・遅延が状態化 11世紀・・・翌年になるような極端な遅れ

11世紀後半・・・貢上記録激減 12世紀はじめ・・・武蔵、甲斐、上野の勅旨牧廃絶 信濃望月牧のみ中世まで存続、1367年10疋貢上

駒牽(こまひき)

勅旨牧の貢上馬を天覧に供した儀式、天皇が紫宸殿に出御して覧のうえ、馬寮や諸臣に分給する華麗な儀式、入場し前庭を3回廻る→試乗→馬寮の取立て→左馬寮の取り立てた馬は日華門、右馬寮の取立てた馬は月華門から退出

3、牧場と生産

牧監（信濃・甲斐・上野の勅旨牧管理者）、**別当**（武蔵の勅旨牧管理者）

牝馬（出産可能5～18歳、不可能2～4歳と19歳以上）

「厩牧令」の法定出産率60%だが現実には75～80%

牧監・別当は私馬を蓄え、牧子や浪人を私的従者とし、騎馬武者を主体の武力集団の長に成長していく→小野牧の別当小野諸興などもこうして武士団に成長？

4、武蔵の勅旨牧の所在

小野牧・・・多摩市、日野市、八王子市周辺？

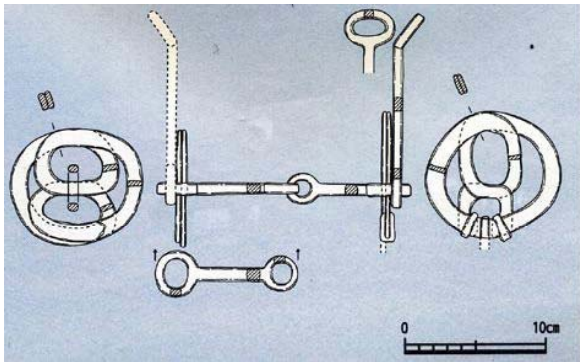
小川牧・・・あきる野市小川？



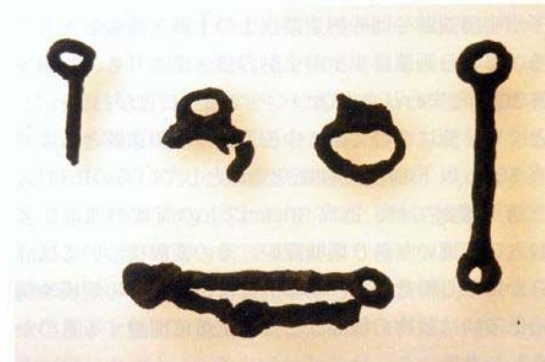
多摩 NT-178 遺跡の住居跡



多摩 NT-178 遺跡の馬具（轡）



多摩 NT-178 遺跡轡実測図



三吉野（日の出町）遺跡の馬具（轡）

武士の勃興と武士団 立河氏などの武士が登場？

1、武蔵七党について

律令の兵制廃止後、国衙には国司が指揮する治安維持のための兵士が存在、国司の私兵
武蔵七党は古代末期から中世にかけて武蔵国に勃興した武士団

武蔵七党・・・野与党（埼玉郡）、村山党（武蔵村山や狭山）、横山党（小野党とも呼ぶ、八王子と近隣）、猪俣党（大里郡）、丹党（秩父・児玉郡）、児玉党（児玉郡）、**西党（多摩郡）**、私市党（北埼玉～大里）、綴（都築郡）などで七つではない。七党は室町以後の美称
背景・・・貞観3年（861）正月十六日 『三代実録』

「十六日、武蔵国毎郡置検非違使一人、以凶猾成党群盜満山也」

検非違使・・・京内の治安維持、訴訟裁判のための令外の官、郡毎に置かれたのは武蔵だけ、
群盗とは単なる盗賊団ではなく、私兵を養い国衙に協力したり、時に対抗した在地の土豪
勢力

検非違使・・・今の裁判官と警察官をかねた、強大な権限を持つ令外の官

2、武蔵七党と多摩川流域

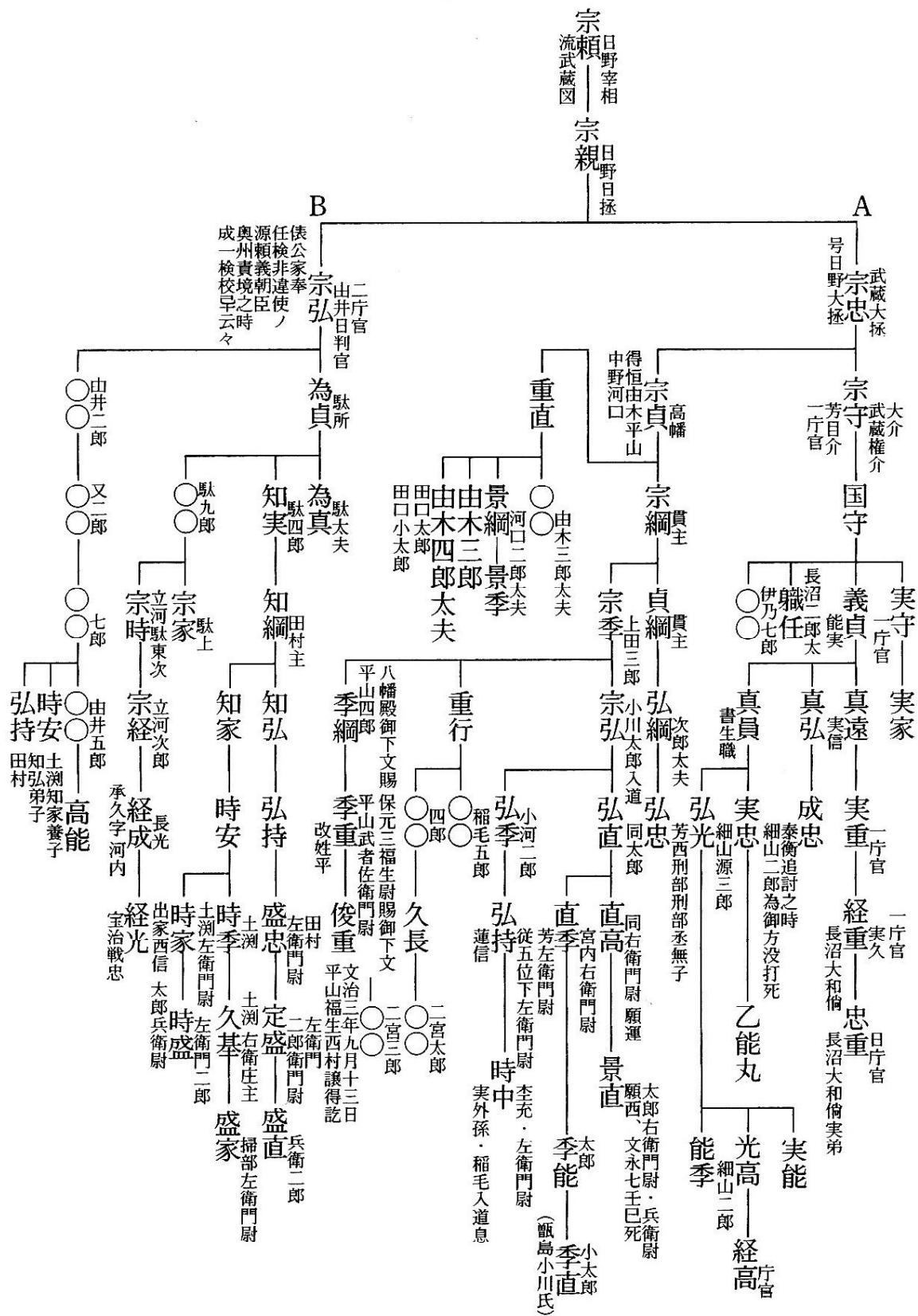
多摩川流域の最も関係深いのが西党である

武蔵七党系図の西党系図と甕島小川系図

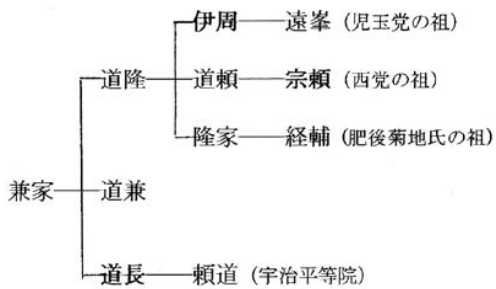
甕島小川系図の由来・・・承久の乱（1221）の宇治川合戦で、戦功があった小川季能が薩摩
甕島（現、鹿児島県薩摩川内市）と肥後益城郡内に 70 町歩の地を与えられた。そして、
地頭として甕島に赴いたのは季能の子、小川次郎季直で、以後 370 年間地頭職、秀吉の
太閤検地で甕島を離れた（秋川市史で調査後、火災で焼失）

壺・弍・参・肆・伍・陸・漆（柒）・捌・玖・拾

圖系小川氏奉日島龜



長徳2年(996)正月16日の事件と撰関家



藤原摂関家系図（部分）



多摩川上中流域の武士団分布

主要参考文献

多摩川足跡化石調査団 『東京都昭島市の多摩川河床から産出した アケボノゾウ足跡化石の発掘調査
報告書』 昭島市教育委員会 2002

田島政人ほか 『アキシマクジラ調査概要』 昭島市教育委員会 1966

八王子市市史編纂委員会 『新八王子市史—資料編2—自然』 八王子市 2014

八王子市市史編纂委員会 『新八王子市史—資料編 1—原始・古代』 八王子市 2013

東村山市史編さん委員会 『東村山市史5 資料編考古』 東京都東村山市 2001

鳥浜貝塚研究グループ 『鳥浜貝塚—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 1—』 福井県教育委員会
1979

森川昌和 「鳥浜貝塚人の四季」『縄文・弥生の生活』日本の古代4 中央公論社 1986

東京都教育委員会 『前田耕地遺跡—縄文時代草創期資料集—』 東京都教育委員会 2002

和田 哲・篠崎譲治 『日野市七ツ塚遺跡 14一七ツ塚遺跡発掘調査報告書』 日野市東光寺上第1土
地区画整理組合 株式会社第三開発編 2004

和田 哲 「東京都昭島市上川原遺跡」『多摩考古 13』 多摩考古学研究会 1978

中山真治 「縄文中期土器の時期細分と集落景観」『縄文中期集落研究の新地平』縄文中期集落研究グループ・宇津木台地区考古学研究会 1995

久保田正寿 『青梅市の埋蔵遺跡』 青梅市教育委員会 1977

吉田 格・伊藤博司ほか、『東京都青梅市駒木野遺跡発掘調査報告書—青梅簡易保険保養センター
改築に伴う事前発掘調査—』 青梅市遺跡調査会 1998

吉田 格・岡部利和 『東京都立川市大和田遺跡』 立川市大和田遺跡調査会、立川市教育委員会
1983

和田 哲 「立川市向郷遺跡の縄文中期集落」『多摩考古』34 多摩考古学研究会 2004

戸田哲也・吉田浩明 『原始・古代のみなみ野—八王子みなみ野シティ内の遺跡調査』 八王子市南部
地区遺跡調査会 2001

吉田 格ほか 『東京都立川市向郷遺跡』 立川市向郷遺跡調査会 1992

和田 哲・長田友也・黒尾和久ほか 『東京都国立市緑川東遺跡―第 27 地点―』 国立市教育委員会
2014

相川 薫・渡辺昭一ほか 『東京都八王子市小田野遺跡—第4次・第5次発掘調査報告書』 社会福祉
法人永寿会・有限会社吾妻考古学研究所 2009

坂詰秀一・持田友宏ほか 『日野市史資料集 考古資料編』 日野市史編さん委員会 1984

和田 哲・中島光世 『田中タダによる共同住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—南広間地遺跡
第 36 次調査—』 日野市遺跡調査会編 1996

和田 哲・佐々木克典 『東京都国立市谷保東方遺跡Ⅱ』 国立市教育委員会 1997

和田 哲 『福生市長沢遺跡—第九次調査報告書』 福生市教育委員会 1997

及川良彦・今井恵昭ほか 『中高瀬遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 201 集 2007

- 和田 哲 「多摩の敷石住居」『多摩考古』32 多摩考古学研究会 2002
- 和田 哲 「縄文後晩期の特色と多摩の遺跡—環境の変化と祭祀の盛行—」『多摩のあゆみ』第146号
2012
- 工藤雄一郎／国立歴史民俗博物館編 『縄文人の植物利用』 新泉社 2014
- 渡辺忠胤・櫛 國男・佐々木蔵之助 『宇津木遺跡とその周辺—方形周溝墓初発見の遺跡—』 中央高
速道八王子地区遺跡調査団 1973
- 水崎遺跡調査団 『八王子市水崎遺跡』 八王子市水崎遺跡調査団 1990
- 服部敬史ほか 『八王子市中田遺跡』資料編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 八王子市中田遺跡調査会 1967～1968
- 服部敬史ほか 『船田 東京都八王子市船田遺跡における集落址の調査』 八王子市船田遺跡調査会
1970
- 奈良県立橿原考古学研究所監修 『大和の古墳Ⅰ』大和の考古学第2巻 人文書院 2003
- 後藤守一 「東京府下の古墳」『東京府史蹟名勝天然記念物調査報告』第13冊 1936
- 八王子市石川天野遺跡発掘調査団 『八王子市石川天野遺跡』 同調査団 1997
- 和田 哲・馬橋利行・桜井聖悟『東京都国立市四軒在家遺跡Ⅱ』 国立市遺跡調査会 2005
- 和田 哲・星 龍象 『下谷保1号墳』 国立市教育委員会 1986
- 清水 周 「梅林1号横穴墓」『くにたち発掘』 くにたち郷土文化館 2014
- 馬橋利行 『国立の古墳—四軒在家遺跡の発掘調査—』 国立市教育委員会・くにたち郷土文化館
2004
- 和田 哲 『東京都昭島市田中町浄土古墳』 昭島市教育委員会 1979
- 和田 哲 『大神古墳』 昭島市教育委員会・大神古墳発掘調査団 1997
- 宮本 救 「編成される郷里」『古代の日本7 関東』 角川書店 1970
- 葛飾区 『新修葛飾区史』 東京都葛飾区 1951
- 日野市 『日野市史史料集 古代・中世』 日野市史編さん委員会 1981
- 高島緑雄 「第六章、第二節 小野牧」『日野市史通史編一 自然 原始・古代』1988
- 峰岸純夫 「第一章、第一節、三 日奉氏と高麗氏」『日野市史通史編二（上）』 日野市史編纂委員会
1994
- 和田 哲・軽部達也『仮屋上遺跡—第四次発掘調査報告書』 国立市遺跡調査会・国立市教育委員会
1985
- 和田 哲 『昭島市玉川町発見の火葬墓』 昭島市教育委員会 1980
- 岡本敏行 「律令国家の形成と墓制の変革」『古墳から奈良時代墳墓へ—古代律令国家の墓制—』
近つ飛鳥博物館 2004
- 和田 哲 『経塚下遺跡』 東京都昭島市経塚下遺跡調査会 1977
- 秋川市史編纂委員会 『秋川市史』 秋川市 1983
- 松崎元樹・中西 充 『三吉野遺跡群1・2』東京都埋蔵文化財センター調査報告第60集 1998
- 松崎元樹 「西多摩地域の古墳時代—三吉野遺跡群・瀬戸岡古墳群の調査」『研究論集XXVI』 東京
都埋蔵文化財センター 2012
- 東京都埋蔵文化財センター 『多摩ニュータウン遺跡調査報告』第24集 1996
- 鶴間正昭 「日野台地の横穴墓—谷ノ上横穴墓群の調査」『研究論集XXVI』 東京都埋蔵文化財セン
ター 2012